

ボイラー・圧力容器に起因する休業4日以上労働災害事例(主なもの)
平成21～25年 滋賀県、京都府

番号	業種 (規模)	発生日 時間帯	事故の型	被災者の職業 年代	発生状況
1	その他の食料品製造業 (10～29名) 京都	6月 10時頃	高温・低温 の物との 接触	製造作業員 40代	煮豆の製造ラインで加圧釜で豆のボイル作業をしている際、圧が抜け切っていないにもかかわらず、誤ってフタを開けてしまい、熱湯が噴出し、火傷を負った。
2	その他の繊維工業 (50～99名) 京都	3月 17時頃	高温・低温 の物との 接触	作業員 20代	試験染色機(圧力容器)の運転において、圧力ゼロに達する前に装置のフタを開けたため、蒸気が吹き出し火傷を負った。なお、その装置には安全装置が設置されており、更にフタ開閉の為に安全ピンを設置しており、これら安全装置の不具合は確認できず。
3	その他の化学工業 (50～99名) 京都	7月 17時頃	高温・低温 の物との 接触	プラントオペレーター 20代	化学プラント内において、反応槽ジャケットの下部フランジを外し、配管内に詰まっていた錆を抜くため、工具で叩いた時に蒸気が吹き出した。作業場が狭く逃げられなかった為、吹き出した蒸気により左肩などに火傷した。
4	病院 (100名～) 京都	10月 13時頃	墜落、転落	汽缶職員 50代	病棟地階ボイラー室内1号ボイラー上部、蒸気送り出し仕切弁グランパッキン部整備中、グランド部から圧力水が吹き出したため、高温蒸気が出たものと思い、避難をした際に足を滑らせ、ボイラー上部から床面に落下したものの。
5	ゴム製品製造業 (100名～) 滋賀	8月 18時	はさまれ、 巻き込まれ	加硫技能員 30代	加硫機で釜開異常発生。フランジロック表示ランプが点灯せず、二人作業で原因調査。釜上、ロック検出センサーが外れていた為、被災者が釜上に上がり、共同作業者が操作盤に分かれ、合図応答で作業開始。被災者が検出センサーを持ち、共同作業者が下の操作盤で手動操作。釜を上昇させピンが作動したとき、被災者の声が聞こえた気がした為、釜下まで行き声を掛けたが応答がなく、急いで釜を全閉まで下げ、釜上を確認したところ、被災者が倒れていた。